



## 新規採用者からの メッセージ

### 天気と栽培の橋渡しで 次世代の稲作を

水田輪作研究領域

舂谷 悠祐 (ますや ゆうすけ)



4月から水田輪作研究領域 ICT活用技術グループに任期付研究員として勤務しています。出身は宮城県で、大学時代は岩手県で過ごしました。生まれ育った東北で引き続き農業研究に携わることができ嬉しく思っています。

現在は、NARO式乾直を核とした水田輪作体系の普及に向けて作業暦策定支援システムの開発に取り組んでいます。年々、気象の変動幅が大きくなり、農地の大規模も進み中、作物の生育状況を把握して効率よく栽培管理を行うことがますます重要になっています。このシステムは予報値を含む高解像度の気象データを活用し、地点や品種などに応じた「オーダーメイドの栽培管理」を可能にします。「気候変動ニ負けず、オ金ガカカラズ、労力モカカラズ、持続可能」な、次世代の水稲作の実現に向けて精進してまいります。

### 小さな一歩でも 少しずつ

水田輪作研究領域

田邊 大 (たなべ だい)



4月から水田輪作研究領域ICT活用技術グループに研究員として配属されました田邊大です。出身は青森県三沢

### 研究にも「遊び」 を忘れずに！

畑作園芸研究領域

水木 麻人 (みずき あさと)



畑作園芸研究領域野菜新作業型グループに配属された、水木麻人と申します。これまでの人生の60%を青森県で、40%を宮城県で過ごしてきた、生粋の東北人です。

農研機構での私の仕事は、日本人の食に欠かせない野菜を消費者の皆さんに安定して提供できる体制をつくることです。具体的には、野菜を売りたい生産者と、それが欲しい加工業者や食品製造業者が繋がる仕組み（最近の言葉でいうと、マッチング）を普及させることに取り組む予定です。

新しいことに挑戦するときは、子どものような自由で柔軟な発想力が必要とよく言われます。哲学者・野矢茂樹さんは、大人にはない子どもの特徴は「遊び」であり、「一人前の子ども」になるという生き方を著書で紹介していました。私も、一人前の子どもがもつ遊び心を忘れずに、研究に励みたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

市で、高校は宮城県仙台市、大学は山形県鶴岡市と、東北を渡り歩き今度は岩手県盛岡市に参りました。これまで私は、UAV（無人航空機、いわゆるドローン）とAI（人工知能）を用いた農作物の収量予測に関する研究を行っており、スマート農業の専門家としてこれからは東北の農業の発展に向けて最善の努力をしていく所存です。農研機構の研究と大学の研究では勝手が違う部分があり、知識や経験も浅いため戸惑うことも多いですが、研究者として地に足をつけて一步一步前進していきたいと思ます。